索(さく)　引(いん)

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

人生に三度読むべき絵本

「人生に三度」とは、まず自分が子どもの時、次に自分が子どもを育てる時、そして自分が人生の後半に入った時という意味です。とくに人生の後半、老いを意識したり、病気をしたり、あるいは人生の起伏を振り返ったりするようになると、絵本から思いがけず新しい発見と言うべき深い意味を読み取ることが少なくないと思うのです。生きていくうえで一番大事なものは何かといったことが、絵本の中にすでに書かれているんですね。

【ノンフィクション作家柳田邦男『絵本の力』（岩波書店）より引用】